

令和5・6年度第2回国分寺市青少年問題協議会

日 時：令和5年8月25日（金） 午後2時～4時

場 所：市役所 書庫棟会議室

出席委員：成瀬大輔（会長），田中久美子（副会長），長谷川久見子，井上和憲，右高博之，西川葵，熊沢渉，青木伸道，田中芳幸，柿崎洋一

事務局：子ども家庭部子ども若者計画課（千葉課長・城内係長・大原）

傍聴者：0名

会 長：第2回国分寺市青少年問題協議会を開催させていただきたいと思います。今回開催するに当たりまして、本日の協議会の成立と資料について事務局からまずご報告をお願いいたします。

事務局：本日の会議の成立についてご報告をいたします。委員12名中、現在の出席は9名となっておりますので、国分寺市青少年問題協議会条例第5条の規定により、本日の会議は成立することを確認いたしました。なお、欠席人数3人ですが、1名柿崎委員につきましては遅参ということで、14時40分ぐらいにこちらの会議に参加していただけるということを確認しております。

また、本日お配りしております資料でございますが、次第が1枚、資料が1と2、そのほかに全体の会議録の確定版といたしましてお配りいただいております。

あと、大変申し訳ございません。前回の資料の中で委員名簿をお配りさせていただいておりますけれども、その中で成瀬委員の字につきまして、「瀬」の字の訂正をさせていただきたいと思いますので、申し訳ございませんが、訂正資料として机上に配付をさせていただいております。会議の成立及び資料の確認は以上となります。

あと最後に、今日の会議の議事録を作成させていただくために、1点お願いがございます。議事録を作成する関係上、発言の最初にお名前を申しただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

会 長：ありがとうございました。それでは会の成立が確認できましたので、これより令和5・6年度第2回国分寺市青少年問題協議会を進めさせていただきたいと思っております。

まず本日の協議事項、2点ほどございます。1点目が今期に取り組むテーマの検討となっております。2点目がそのテーマに関する勉強会、講師の検討になります。まず、初めに今期に取り組むテーマの検討につきましては、おおむね3時半までをめどに決定ができればと思っております。その後、残りの時間30分程度になろうかと思いますが、勉強会の講師の件を行えればと思ってお

ります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ではまず、初めに協議事項1、今期に取り組むテーマの検討について、前回の協議会の議論の続きから協議していければと思います。前回の検討の中で事務局に資料の作成を依頼したものがありませんでしたので、初めに事務局から資料について説明をお願いいたします。

事務局：資料1を御覧ください。こちらは令和3年度第3回の協議会で配付した資料になります。市の課題を妊娠、出産、乳幼児支援に関する視点、子育て環境整備に関する視点、子育て支援サービスに関する視点、子ども・若者支援に関する視点、子どもの貧困対策に関する視点の5つの視点から記載しております。資料内に現在の国分寺市子ども・若者子育ていきいき計画のアンケート調査の結果の記載がありますが、そのアンケート調査については今年の冬頃に、次期計画策定に向けたアンケート調査を行う予定ですので、多少状況が変わっている部分もあるかと思いますが、現時点で把握している状況としては、資料にある数字が最新のものとなっております。

続いて資料2を御覧ください。こちらは近隣自治体の令和3年度青少年問題協議会の活動状況一覧になります。東京都が毎年1回都内全市区町村を対象に東京都青少年行政関係組織調査を行っておりまして、それを基に作成しております。前回要望のありました八王子市、三鷹市に加え、国分寺市に隣接している5市の情報を抜粋しております。表は左から自治体名、協議事項、開催回数となっております。都内全体の開催回数の平均は2.46回でした。この開催回数には総会、常任幹事委員会等、専門部会という3つを合わせた数となっており、本市のように委員全員が集まって行う総会形式の開催回数は平均1.2回となっております。

なお、資料に記載している自治体では、八王子市と小金井市が総会以外の会議を行っており、総会のみで開催回数は八王子市が開催回数4回のうち、総会が1回、小金井市は開催回数5回のうち、総会が2回となっております。その他、全市区町村の協議事項としては青少年の健全育成基本方針の策定、見直し等や青少年に関する事業の報告を行う自治体が多く見られました。説明は以上です。

会長：ありがとうございました。ちょっと私でも今、見ながらどんなところがポイントかなと思って、確認をしたいと思っているのですけれども。まず資料1番につきましては、令和3年度の第3回に配付された資料、子ども・若者計画の冊子があるのですかね、確かそれを配られたかと思うのですけれども、その中で課題として挙げられている部分を、1冊丸々お配りしたものであるので、課題を抜粋していただいたと。特にこの各項目の矢印以下の部分ですか、こちらがアンケート結果から見えてきた各項目の現状、課題であろうかというところが抜き出されているように見受けられます。例えば妊娠、出産による支援に関する視

点での課題でいいますと、やはり妊娠中から現在まで不安を感じたり、自信が持てなくなったことがあるかという質問に対して、「ある」、「ときどきある」という割合がかなり高くなっているとか、あとは子育て環境整備、2番目ですと、かなりフルタイムでの就労でしかしていないと、子育て中の就労の負担というのが大きくなっている現状があるといったところですが、そういった視点が示されているところになるのかなと思います。

それから、資料2番に関しましては、各自治体のこの青少年問題協議会という組織の運用状況についての内容となっているようです。各自治体、それぞれ独自性があるようで、国分寺のような体制のところもあるのかもしれませんがけれども、各市、比較的、総会、みんなが集まるものですか、部会形式のような形で少しそのメンバーの中で次で検討すると。ただ、そういった中での回数はこういった回数になっているようでございます。

まずこの資料に関してご質問等があれば、おっしゃっていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

委員：この資料をお願いした関係でちょっと言いますと、令和3年度3回配付資料からの抜粋のところですが、そうではなくて国分寺市が置かれている状況、国分寺市の青少年が置かれている状況についてのデータなど単純なものが配られているわけです。それを見ると、よそと比べると国分寺はこうなのだなといったことも見えるので、そういったことが見える資料を前に頂きましたね。その資料を今回も皆さんに共有したらいかがですかということをおしよ上げたのですけれども、その意味ではちょっと違ったかなと思っています。

会長：その冊子ごと皆さんにお配りするべきだったのではないかとのご指摘ですかね。ほかに、今のことに関してでも構いませんけれども、その他。

委員：すみません。先ほど、またアンケートを実施するとおっしゃっていたのですけれども、そのアンケート内容というのは我々に開示するというのはあるのですか。

会長：まずアンケートの時期とどういった枠組みで行われるものか、その辺ちょっと概略をご説明いただいでよろしいでしょうか。

事務局：今現在、そのアンケートと申しますのは、子ども・若者子育ていきいき計画の次期計画の策定に関しまして、アンケートの準備を進めているところでございます。この計画につきましては、計画策定の委員会が別途立ち上がっておりまして、そちらの中でアンケート等については今、ご意見を頂きながら作成を進めているところでございます。また作成が終わった段階では、議会等にもご報告をさせていただきますので、その後であれば皆様にも説明させていただくことが可能かと考えております。

委員：分かりました。ありがとうございます。

会長：アンケート項目の策定と、それを議会に諮り、さらに実施を行うわけですね。

そういう段階を踏んでいくという理解でよろしいのですか。

事務局：時期につきましては今ちょうど市民意向調査というものを作成しておりまして、実施については10月上旬を目途に進めている状況でございます。

会長：ありがとうございます。そうしますとある程度これはいきいき計画で取り組まれている内容ではありますけれども、結果については共有できる時点で我々にも提供いただくことは可能であるとかという話ですよね。分かりました。

そのほか、いかがでしょうか。では本題というか、ちょっと資料が思ったのと違うのではないかというご指摘もありますけれども、テーマの議論に入らせていただきたいと思います。令和5年度・6年度のテーマについて、前回皆さんからいろいろな興味、関心、こういうテーマがいいのではないかというご意見を頂きましたけれども、改めてテーマについて皆様のご意見を伺えればと思います。もうごつくばらんにご発言、ご意見頂ければと思うのですけれどもいかがでしょうか。

委員：よろしいですか。この資料の最後にありますけれども、立川市の資料のところで、「東京都青少年問題協議会での諮問、答申について」というのがあります。私がこれで講師をやったことがあるのですけれども、その都の青少協はこの間テレビで出ていましたけど、東横キッズの問題について諮問されて、それについて調査・研究して答申しているのです。青少協は本来そうした組織であるはずで、青少年の問題について調査、研究して対策を提示しようとする、そこでどういう活動を計画していくようになろうと思います。

例えば先日、私がスマホ依存という問題を申しましたが、小学校の校長先生からも大変難しい問題だと、困っているというお話がありました。青少年のスマホ依存について学校やPTAに調査を行い、それこそ今のお話のあったアンケート調査の項目を考える、そういったことで話し合い、そしてその研究をして、対策を練って、広報していくといった窓口になるのかなと思うのです。ちょっとこれまでのところ、私の言っていることとちょっと違うかなと、そう思うのですけれども、都だってこうやっているわけだし、そうあるものです。ということです。

会長：ありがとうございます。今ご指摘いただいた、確かに、私も報告書など目にしまして、東横キッズの問題について、つい先日、弁護士会の子どもの権利委員会なんかで共有されたので目にしました。都の青少協はこういうことをやっているのだなと思って、すごいなと思って拝見して感心したのを覚えています。

現実的にやはりある問題について地域の方たち、子どものことに関心のある方たち、関わっている方たちが実際に目に触れて、地域に発信をしていく、そのための調査とか学び、研究を行うというのは、それはあるべき姿なのかなと思います。ですので、前回、言っていたいただいたそのスマホ依存、ゲーム依存の問題、あとは不登校の話なども確か出していただきましたよね、不登校のお子

さんのケアというか、まずどのようにそれをそういう子たちの表面的な部分だけではなくて、実態ですとか背景ですとかいろいろなケースがある中で、どのように我々が見守っていくのかというところで問題もあるでしょうし、あとは虐待とか、いろいろな問題で施設に入っているお子さんたちの存在について、何か学んだりすべきではないか、そういったテーマをお出しいただいたかと思えます。

今、前回のテーマ、ちょっと漏れがあったら申し訳ありません。ほかにこんなのがあったよというのがあれば、おっしゃっていただければと思うのですけれども。そういった前回の積み重ねでもいいですし、またちょっと違う視点でもいいですので、こんなことを皆さんとお話ししていきたい、勉強していきたいということがあれば、ぜひおっしゃっていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

委員：今日テレビで流れていて、ちょっと気になったことが1つあったのですけれども、NPO法人の「カタリバ」というところがメタバース空間を使って、不登校児を支援しているという話題が出ていまして、ちょっと興味深いなど。今回の私たちの委員会のことにもちょっと関わってくるかなと思いました。それを自治会というか、市とか協力しながらメタバース空間のものをやっていたりとかもするので、国分寺市でもそういったことができるのかなみたいな、何らかのアプローチをかけることも私たちとしてはできるのかなと、ちょっとそのカタリバさんと協力し合いながら、何かしらのことはできるのではないかなと思ったりはしました。

委員：ちなみに、カタリバはどこにあるのでしょうか。

委員：都内だったと思います。

会長：杉並だったか、その辺りの確か。

委員：杉並区の高円寺です。実際に戸田市とかも取り入れているそうなので、戸田市の教育委員会とかも取り入れているそうなので、実際に取り入れている自治体もあるということなので、興味深いなと思いました。

会長：ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

委員：教育というか、多分子どもたちの第3の居場所みたいなものを作ってらっしゃる団体だと思うのですけれども、勉強だけではなく、学校とかインターネットにしても人とのつながりを無くさないための居場所づくりをされているところだとは、私はちょっと認識をしているのですけれども。メタバース空間を使うことで、自分自身のアバターを置くことで、自分自身の顔とかは出していないけれども、人とのコミュニケーションは取れる。こういった形であっても、インターネットでもあっても、リアルであっても人とのつながりとか人との関わり方をやはり子どものうちから学んでいかないと、ますます社会に行くと接触を子どもは失ってしまうと思いますので、そういった新しい取組をしていると

ころから、いろいろと教えていただいて、何かしらの子どもたちに対して支援ができないかという入り口とかきっかけにはなるのではないかなと、個人的に思いました。

会長：ありがとうございます。私も聞いたことがあって、サードプレイスとかいいますよね、横文字で。新しい、学校でもなく家でもなく、高ストレスでやはりどうしても学校にいられない子が家に引きこもるよりかは、社会とのつながりを持つ第3の場所を作ろうという、横文字、サードプレイスなどといったりかして、こうやっていこうというお話があると聞いたことがあります。ありがとうございます。

ほかの皆さん、いかがでしょうか。

委員：よろしいですか。カタリバの活動について、私も最近10年ほど触れていないのですけれども、その前に高校ではいろいろな形でカタリバの人たちに参加してもらって、生徒たちとこういうのを一緒にやらせてもらおうといったことを何度もやってきました。子どもたちにとって、すごく啓発される場所が大きいと思います。ただ、ここの会としてどう取り組むかなというときにイメージが出てこない気がしますので、少し検討が必要かなとは思っています。

会長：ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。まだちょっと先の話なのかもしれませんが、一応この会としては2年間の活動の中で何らかの成果物というか、成果を出しましょうということで動いていくことになります。それは前回も少しお話がありましたけれども、前期は啓発ポスターを作りましたが、必ずしもそれに限らず何らかのイベント的なものでも、あらかじめこういうふうにやりたいということがあれば予算を事務局に取っていただいた後、ご意見頂いて、可能な範囲でそれはやっていけるのではないかという話もありましたし、ここ多分何年かはリーフレットとかポスターを作る活動が何期かは続いているところではありますけれども、大体そういうイメージと、若干セットという部分も出てくるのかなと思ったりもしています。いかがでしょうか。

委員：すみません、先ほどのアンケートのところちょっと質問させていただいてもよろしいでしょうか。アンケートの対象は親御さんになるのでしょうか。

事務局：アンケートにつきましては、子ども・若者施策を考える部署となりますので、就学前のお子さんにつきましては、就学前のお子様の保護者の方に状況を答えていただくアンケートになります。それから小学生の学年については、その保護者と、小学生でも簡単なものですが回答を頂くアンケート、それ以外については中高生の年代のアンケート、それ以降については18歳以降39歳の方へのアンケートということで、若干内容が違うもので4種類のアンケートを今考えているところでございます。

委員：分かりました。ありがとうございます。私も今年初めてちょっと参加させていただいているのですけれども、もちろん親御さんからの問題の提起であったり

とか、アンケートの内容だとかというのもまず大事だと思うのですが、直接やはり子どもたちからのこととか、今悩んでいることとか、そういった直接子どもの声を聞ける今年と来年の1年ちょっとできればいいのかなと、すみません、ざっくりにはなるのですけれども、子どもの声も聞ける何かがあればいいのかなと思っています。

会長：ありがとうございます。

委員：私も賛成です。

会長：ありがとうございます。

委員：子どもの声が聞きたいです、そういう場が少なすぎるので。聞き出せることをしたいです。上辺のことしか聞こえていないのですけれども、手法としては非常に大事と思うのですけれども、そういった方法をぜひ確立して、2年目のときにはそれができる、できればイベント、生の声を拾えるものがあると思っています。今年というか来年はポスターという方法ではなくて、できればせつかく対面ができるようになったので、人との交わりを作りたいですね、集まるとか。半分以上は子どもであってほしい、そこにいる人たちは。我々はその位置づけ役というか、引き出し役になりたいと思っています。

ちょっと1つ質問していいですか。平成25年、26年でいじめをずっとテーマをされていて、最後、パネルディスカッションとかをしているのですけれども、それ以降いじめというのは取り上げられていないのですか。パネルディスカッションが少し弱いと思ひまして。でも来年、いじめ対策で調査されたりとか、先ほどのアンケートもそうなののですけれども、行われているみたいなのですが、掘り下げられていない気がしてしまひまして。きっかけがささいなのですが、私の息子が不登校なのです。このアンケートが配られたのですけれども、答えられていないのです。そういう声が聞こえていないと思うのです。親が仕方なく書いているのです。それだと偏ります、どうしても親がこう思うと、多分子どもがこう考えているのではないかということを書いているだけなので、それが漏れている気がします。本当のところはどこにあるのかという。

低学年はなかなか本当のことは言えないので、そういうのを聞き出す場というのがどこかにあればというのが私の思いです。それが積み重なっていくと、大きくなって悶々としてやっとなげられるようになったときに、その子がトラブルに巻き込まれたりとか、トラブルを起こしてしまったりとかになってしまうのではないかなというのが、絶対にあると思ひていて、何とか小さいうちにコミュニケーションができるように、声に出せないのだったら書く、書けないのだったらアバターを作る、できないのだったら何か文字で表すということができると、多分発散できるのですよね。多分発信する、発散するができないのでかんしゃくを起こしたりとか、引きこもってしまったりとか、ゲームにはまったりとかという方向にあるので、一番楽なのですよ、こもると。私もゲー

ムだと集中できるので。仕事もパソコンをやっていると集中が切れてしまう。でも会議だと結構緊張感がありますけれども、発言するのは勇気が要るのです。体力も要ります。それは子どもになればなるほど多分できないです。その性格の子になればなるほど発信できない。問いただしても余計引きこもってしまうので、何か表現してみたり、何でもいいのですけれども。全く違う方向でもいいのですが、好きなように引き出してもいいのです。今、それは何と言っているにしても、ふだん青が好きなのに、赤と言ったときは感情が高ぶっている可能性があるとか、そういう行動とかを聞いてみたのですが、そういうのをいっぱい用意していただいて、そういう場に子どもたちを送り込んで、とにかく観察して、何か聞き出せるものは聞き出すという、ワンプッシュ、その場のきっかけ作りになりたいと思っております。長くなりました。すみません。

会 長：ありがとうございます。今のお話は、声を聞くということを目標に定めるのか、あるいはそれをプロセスに置くのか、どちらにしてもすごく大切なことだとは思いますが。

委 員：どのテーマでも同じにつながると思うので、テーマを皆さん、こういったものにするだけ決めて、あとはその中身に入っていったほうがより実りがあるのかなと思いますので、もし皆さんが賛同いただければ、どこか先ほど挙げていただいた3つか4つのテーマでもう絞り込んでしまっ、それを掘り下げていったほうがいい気がします。スマホ依存ならスマホ依存、不登校なら不登校、施設に入居している子どもたちを対象にということであれば、それを掘り下げていけば、それにつながる小さい子、中間の子、高校生、卒業した子ということで大丈夫だと思うので、何かテーマを決めて、そこに対するいろいろな対策、きっかけ作りをできればいいので、今はテーマを決めるのに時間をかけるのはもったいない気がします。どれでも多分つながると思うのです。

委 員：すみません、質問していいですか。先ほど事務局から説明がありましたが、アンケートが保護者向けでということで、これは青少年向けのアンケートがあってもいいわけですね。だから子ども向けのアンケートがあってもいいわけですね。

事 務 局：そうですね。教育委員会で教育ビジョンの関係で、今年度は小学生、中学生対象に今アンケートを作って、3つの計画としては今やっている状況にはなっています。

委 員：こちらでその調査したい内容を、アンケートを取るということは、子どもたちの意見を吸い上げたいということであるところをいうと、どうしてもそこに行くのだと思うのですが、そうすると膨大な数になる。ただ、それは上手にアンケートを作れば、マークシートでもできると思います。マークシートリーダーでやれば、A4の紙で、普通の紙で、マークシートリーダーでもって全部読めてしまうだろうと思うのです。それが国分寺市の施設にあるかどうかというのはちょっと



分かりませんが、私がいた高校にはみんなあったので、どうなのかなと。そうしたら別にそんなに難しいことではないのではないかなとは思っています。

会長：ありがとうございます。テーマを深めていく上で、そういった子どもたちの声をアンケートのような形でできるのではないかということですよ。

委員：そうですね。やはり僕が言っている、スマホ依存ということでは、スマホ依存であるかないかという質問の仕方というものもあるわけですよ。その質問をすればいいのですよ。その質問を子どもたちに向かって投げかける、そして保護者にも投げかける、学校にも投げかける、それだけでも結果は出てくる。出てきた結果が怖いからやめておこうという話も聞きますけれども。

会長：ありがとうございます。そうですね。皆様からのご意見をいろいろとお聞きしますと、やはり不登校というか、学校もいじめとかいろいろなことがあるとは思いますが、学校教育は学校に行く、いるという、その場になかなかいことができない子どもたちの実態であったり、声だったり、そういったものについて我々として触れていくべきなのではないかというのが1つ大きなテーマとして設定できそうだなと思うのですけれども、皆さん、いかがですか。

委員：特にいじめ、不登校、先ほどアンケートの結果でも増加していると書いてあって、それはコロナで子どもたちが3年間、多分従来とは違う通学をしたのか、我々が経験したことがない通学スタイルを過ごしていて、その影響はどの程度だろうと。うちの子どもが今年5年生なので、多分2年生ぐらいに学校、結構行っていないのです、3か月、4か月くらい行っていないで、接触も限定的で恐らく運動会も今あるのかないのかの状態、その影響は今までと比較ができないから、今であれば、このタイミングでちょっとその実態が見られるのであれば、また過去のデータと違うのかなと思って、やはりコミュニケーションということですよ。そういった意味ではすごく興味はあります。

会長：ありがとうございます。いかがでしょうか。校長先生ということなのでなかなか発言しにくい部分があったり、逆に発言したい部分もあったりするのかなと思いますが、いかがですかね。

委員：子どもの本質はそんなにずっと関わってきて変わっていません。小学生はやはり興味、関心が高くて友達と関わりたいですし、暑くても遊びたいですし、子どもはすばらしいなと思いつつながら接しているわけです。環境が様々、時代とともに変わってきているので、その影響を受けているというのはもちろんありますよ。

それから、いじめは増加しているかということも一概に、不登校は数字として出ているし、何日以上に通っていないかとか、報告も数字で上がるので、増加しているということであれば、その様々な理由がありますけれども、数字的には増加していると考えています。いじめはちょっと捉え方がその時代時代で数字の報告も変わって、平成30年よりちょっと前ぐらいに大きく変わって

ます。嫌なことも全ていじめとしてカウントしなさいとなるので、七小でいうと、毎学期 70, 80 件は1件、1件シートになって出てきて、それが重大事案につながる可能性があるのかどうかというのを検討しています。検討して、継続的に見守りが必要なのか、あるいはちょっとかき出してお互いごめんなさいで終わるレベルなのか、そういうことを判断しながらやるので、数字は、それはもう昔と雲泥の差で上がってきて、対応も数年前よりは、平成よりは変わってきているのは事実上ではあります。では、昔から継続的に陰湿なそういう悪いいじめが、そこに潜んでいないかどうかをやっているわけですけれども、それが実際、では増えているのかどうかというのはちょっと、それは分かりかねると考えています。

それから、先ほどのお話を聞いていて、何をするかということがあるので難しいですし、私たちがどこまで子どもたちをイベント、最後何かやるときに引き出したり、連れ出したり、聞き取りに出かけたり、それに対応できるのかなというのがあります。例えば臨床心理士、お医者さん、研究者でもないわけですから、様々な立場で仕事をしている私たちがどこまで何をして、どういう報告をするのかという、さっきのルーティンですけれども、それがある程度、そちらが先ではないですけど、それを頭に入れながら考える必要がある。カタリバとか不登校の対応で、私たちが体験すればいいわけではないので、そういった場合に、その後どうしていくのかということも踏まえて考えないといけないなど思いながら聞いていたところです。

それからアンケートは、学校が校長会等を使って国分寺市内の小学校、中学校であれば可能だとは思いますが、今、学校はそれこそアンケートというのはもう各団体、教育委員会、文科省からもすごく降りてきて、その団体、その部署は1件出しているかもしれませんが、末端の学校にはもう数十本のメールが副校長、校長には毎日届いて、その中にアンケートが入っている中で、それは教育委員会の指示、伝達なので、受けなければいけませんけれども、授業時間にやるわけにいかないとなっているので選択できるものはなるべくやらないようにせざるを得ないという状況です。もちろん必要なものはやっていくしかないですし、それで現状を知るといえるのは大事ですし、その内容についてはやはり精査してやっていく必要があるだろうと現場の立場では思っています。

会長：ありがとうございます。先ほども、おっしゃっていただいた子どもの声だけど、やはり声を出せない声という、形にならない声というのは当然あるとは思いますが、それを言えない状態の中で無理やり引き出すというのは、逆にそれがまた侵害になってしまったりする部分もあったりとか、我々としても子どもの声を聞く立場として気をつけなければいけない部分というのは十分にあるのかなと、今ちょっとお聞きしながら感じていました。子どもアドボカシーという

のも今はやっているのですけれども、私も興味を持っていろいろ学んではいるのですけど、やはり大事な視点なのだろうなと思います。あと、何をするのかによって確かにテーマは変わってくるとは思いました。

委員：あとは、不登校の関係で言いますと、フリースクールというのがありますよね。東京都内は割と地方よりはあるので、保護者は探して、学校に通えないなら週1でも週2でもどこか居場所作りをということでやっていらっしゃる方がいますが、意外と学校にその情報がなくて、例えば民間なので、紹介するという立場に立てないというか、そういうことがあります。

東京都は調査研究費という形で、本当に少々ですけれども月々補助、助成を保護者には行っているところではあります。民間がやっているのでもなかなか授業料とといいますか、そういうものも高額とといいますか、どうしたものかと思う保護者がいらっしゃると思っています。だから不登校のことで何かというときには、そういうフリースクールというところに視点を当てるという点もある。でも子どもの声を聞きたいのとはちょっと方向が変わってしまいますけれども。

会長：ありがとうございます。ただ先ほどサードプレイスの話、フリースクールの話、あと今、面白いのだと校内カフェになっている活動が地域によって、団体さんによって取り組まれたりとか、そういう学校内に居場所、サードプレイスというか、その点、学びの場に限定しない、単にいてもいいよという、そういう居場所を作ろうという取組をしているなどという話もあったりとか、非常にそこに視点を当てるなら、居場所はどこにあってもいいよね、自分らしくいられればその場所が君の居場所なのだよというところが、子どもたちに伝わる地域社会であってほしいと私は願ってはいるのですけれども、そういう視点でどんな活動、あるいはどういう方向性が考えられるのかというところを、皆さんと一緒に考えるのは面白いかなと、今お聞きしながら感じました。というのを1つ、テーマ、私のアイデアとしてお出ししましたけれども、いかがでしょうか。

委員：今、子どもたちの意見を聞くということで話が進んでいるのですけれども、不登校だとかいじめだとかという経験をしている子というのは少数派かなと思うのですよね。一般的には普通に学校に通ったり、楽しんでいると思うのですけど、そういうマイナスの意見を本当に聞けるのかなというのは感じますよね。子どもとしてやはり伏せておきたいというのはあるのかなと思いますし、そこで大丈夫、正直に話してと言っても話してくれないのかなというのはあるので、その辺の問い方というのはあるのかなと思っています。ですので、自分としては隠したいことを話すことによって不利益を感じる子どもがあるとしたら、ちょっと違うかなと思うのですけれども。そういう意味では問い方もあるのかなと思って、今聞いていました。どうなのですかね。

会長：ありがとうございます。テーマともそれるかもしれませんが、やはり答えても答えなくてもいいという自由度はまず保証されているということ、それ

から誰が何のために聞くのかという、そういう目的とか趣旨をちゃんと子どもに分かりやすくそれを伝えなくてはいけない。それから自分が答えたことがどう使われていくのか、どのようにオープンになっていくのか、それもちゃんと説明して、それをこちらも守らなければいけない、そういう枠組みをちゃんと子どもと対等に、存在としてちゃんと説明をしてあげないといけないですし、それでも答えられないというのであれば、それはそれでいいのだよということで受け止めるという、そういういろいろな配慮が多分必要なのだろうとは思いますが。

委員：すごく難しいのかなと思います。

会長：特にづらい体験をしたりとか、傷ついた経験のある、やはり大人でもそうですがけれども、過去の傷を振り返るのはすごく辛いことですし、思い返すとまたフラッシュバックもあるでしょうし、メンタルが落ちることもあるでしょうし、追体験することもあると思いますので、当然決して強制はできないですし、聞くことというのはとても難しい。けれども聞かなくてはいけない、ちゃんと聞くのだよという姿勢がやはり我々、大人の社会というか、部分を示さなくてはならないという段階に今なってきているのだろうなと思います。ありがとうございます。

委員：アンケートで子どもの意見を聞いたりとか、大変高度な技術が必要かなと思います。その技術がはっきり言って、ただ声を聞きたいだけで伴っていくかというのと、それは違うと思うのです。さらに声を聞いた後もその結果をどう取り扱うというところまで、私たちは技術を持って取り組んでいかななくてはならないとなったときに、大変大きな課題と思われれます。メタバースのご意見、とても斬新だなと思いましたが、その場所を作る、けれどもそこで交わされた会話や皆さんのやり取りが、一体それがどう発展していくかとか、そこまで考えながら取り組まなければ、それだけデリケートなものではないかと私は思うのです。

その中でちょっと私はと思ったときに、おっしゃったサードプレイス、フリースペースとか、校長先生がおっしゃってくださった学校以外の場所は、国分寺は今どのような状況なのだろうかと。これは不登校やいじめで行けなくなったお子様はもちろん、あと施設に入所されているお子さんがこれから成人に向かっての、またよりどころとしての第3の場所とかそういう意味合いとしても捉えられる場所として、では国分寺市は今どんな状況なのだろうかというのは今、私はとても知りたいと思います。逃げ場といったらちょっと変な言い方かもしれませんが、その子たちにもそういう場所が当然あっていいと思うのですよね。そこをフォーカスできればといいなと、今ふっと思いました。

会長：ありがとうございます。

委員：よろしいですか。何度もすみません。不登校に関するお話を伺うと、私は定時制の教頭も4年やっています、そうすると入ってくる生徒のうちの4割以上

が小学校の3年、4年から学校に行っていません。そういう子たちが来ます。大体は算数ができなくてと、割り算に使ったところでもう学校に行かなくなったという子は非常に多かったのです。それは置いておいて、そうやって高校には来て、皆勤で卒業していく子たちをいっぱい作って、僕らは喜んでいただけです。そういう子たちもいるし、それから今、フリースクールということも言われましたけれども、フリースクールが、それぞれに持っている特性というのがある。強烈なものがあります。

親の在り方として子どもに対して、精一杯やろうと思っている、向かおうと、子どものために考えようと思っているけれども、今の学校というものは信用ならないという親も大勢います。例えばクリスチャン、敬虔なクリスチャンたちは小学校に行かせるわけにはいかないと言って、そしてグループをあちこち作っています。そういったこともあります。

それからクレーマーなり、モンスターの親たちの話しに行くと、もう子どもに質問をするのは絶対に許さない。子どもに質問しようとする事自体とんでもないと、そういう親たちも大勢います。学校に食いついて、学校全体が本当に困ってしまうと、疲弊してしまうという状況というのも昔からあります。それはこうすればいいのだというものはありません。もうありませんと言ってしまっていていいと思います。こうすればいいのだというものがなくて僕らが踏み込んでどうしますか。ある程度関わっていた者として、ちょっと難しすぎるなと思います。

会長：今のご意見は今期のテーマとして不登校問題というか、不登校の居場所のことについて掘り下げていくのはちょっと難しいのではないかというご意見なのでしょうか。

委員：そうです。こういうところもある、ああいうところもあるというのは出せます。だから困った場合、こういうところもある、ああいうところもあると伝えるということはできると思いますが、それはもうできています。世の中にできています。親たちが知っています。真面目な親たちが知って、取り組んでいます。

委員：いや、知らないと思います。知るすべを知らない。私はすごく時間をかけて聞き伝えで知りましたが、以外に知られていない。調べるのもホームページとかたくさんあるのですけれども、もういろいろあって、仕事しながらでは無理です。そういう話を多分、親はいろいろ見つけて、学校に聞いても、学校も先ほど校長先生もおっしゃったように、確かに民間を紹介するのは大変ですし、私も子どもをフリースクールに入れているのですけれども、すごく高額なのです。それはでもやらざるを得なくてやる。でも、できない人もいます。それも問題だと思えます。ですので、すごく多様化しているのですけれども、だからやらないはおかしいと思います。それを統合するだけでもすごくメリットがあるのです。小学生だったらここを見なさいとなっていれば分かります。でも、そう

ではないです。幅広過ぎて拾いようがないし、行ってみないと分からないです。2, 3回, 会社を休んで面接に行きます。でも, それでも分からないです。会話してみてやっと分かる。そして, そこが合っていないことがあるのです。そうすると次のフリースクールに移る。それを1年間やっていると2年生になってしまいます。というのを皆さん, 抱えているということが問題だと思います。

だから, 問題視するのであればそれをさらけ出して, ゴールができなくてもいいと思います。でもさらけ出して, 市民に知っていただいて, 知らない方はみんな知っていただく。もっと深いところで, 先ほどの犯罪みたいになるところも, それも皆さんと一緒に私は全然分からないです。他の委員さんが知っていることも, 私は知らなくて初めて聞いてみて, でも大事なのですよね。それをここだけで終わらせるのはもったいないです。それをもっと広めて, 発信して広がって, これもう大変だとなっても私はいいと思います。次があるので, 来年もあります, 再来年もあります。だから継続するのが力なので, どんどん続けていって, それで先ほど触れたのが, いじめがここで終わってしまうのはもったいないと, 私は思ったのですよね。だったらいじめに戻って, もう1回いじめを掘り下げたほうがいいと思うのです。それは不登校につながるようになりますし, ネット依存につながることもあると思うのです。だから1個に絞ってどんどん掘り下げていって, 10年やったら何とか実りになるかもしれない。

あと, 集めて人が集まらなくてもいいと思うのです。集めてみたという実績ができれば3年後に集まってくれるかもしれないのです。3年後には私の子どもも大きくなっているんで, また違う課題を抱えると思います。でも自分の子どもがいるからこそ, そういう問題に真摯に取り組めるので, ぜひ何かやってみたいです。かつ, やる時間は限られているので, やりきることは多分難しいと思うし, 多分できない。先ほどお話を聞いているとなかなか難しい課題などにぶち当たっていて, こんなことをやってしまったと多分思うのですけど, それが少しでも, 例えば100分の1でも可能性があるのであればやって, こんなに見づらくなっているのだというところに皆さんが気づいていただけたら, もうちょっとよくなるのではないかと思うのです。

全然, 話が変わりますけれども, こういう印刷物ももう少しうまくできないかなと, 私はいつも思うのです。議事録も多分公開なので仕方ないのですけど, この議事録がすごく宝だと思うのです, 分厚いの。これが25年から淡々と続くと, もう1回読み返すと, そこにヒントがないかなと思って, これ, 後で聞こうと思ったのですけれども, 読むことはできませんか。そこに結構ヒントが隠れていて, すごく大事なことをやってきたのが積み重なって, それが何かになっていないのがもったいないなと思いました。それで先ほどいじめというお

話を出したのですよね。もう1回いじめに戻って、いじめが不登校のイメージにつながるとなっただけでも、それが成果だと思うのです。逆かもしれないけれども、ネット依存がいじめになったのかもしれないのですけれども。でも、それだけでもつないでいけるので、やってみて、発信してしまって、失敗したらそれでいいのではないかと私は思います。すみません、やってみたいのですよね、ぜひ。

会 長：ありがとうございます。

委 員：皆さんが賛同いただけたらですけれども、結構力が要ると思います。時間がない中でやらなければいけないので、覚悟が要りますよね。しかも先ほど踏み入れてはいけない、生の声を聞くという、確かに一番大変センシティブですよね。

委 員：おっしゃったように少数派なのですけれども、中間に少数派ではないところにいたのうわっとしまして。どちらにもつかない子どもたちもいるのですよね。でも学校に行けて、そのまま大学まで行って、大学まで行ってから問題を抱えている人もいっぱい今までいますよね、ひきこもりの10代とか。実は掘り下げていくと新聞とかでいうと、過去がこうだったと。そのときにやっていれなかったのにというのがいっぱいあって。

ですので、私も結構声が大きいのですけれども問題視しています。そのままいってくれたら、要するに今の私の息子もそうですけど、このまま高校に行って普通に発言できるようになって卒業してくれたら、それもハッピーなのですよ。ほかにそういう子がいて、逆の方向、マイナスにどんどん行ってしまう子もいれば、両方あるので、やらないということもないかなと、やはりやったほうがいいかと思えますよね。駄目でもいい。

せつかく皆さん、民間の方が座っているので、ぜひやってみて、多分行政さん、なかなか踏み入れないところなので、こういう協議会のほうが踏み込んでいって、行政さんはやはり不特定多数の方を見なくてはいけないなので、少数派は拾っていけないと思うのです。こういう会は少数派を拾いつつ、それが全体に広がって、ひいては一般の方にもメリットがあれば、広がっていけばすぐ実りがあるなと思えます。すみません、また長くなりました。

会 長：ありがとうございます。私もここで解決案を皆さんで考えて提示をするということが必ずしも目的ではないと思っていまして、それは地域の子どもたちを取り巻く課題ですとか、ちょっと制度とか実態とかで目詰まりしている、それによって子どもたちが苦しんでいる、落ち込んでいる状況がもしあるのであれば、それについてスポットを当てて知ってもらおうとか、そういう活動でも十分意義があるものだと理解をしていますし、やってみるというのはとても大事なことなのかなと思います。やり方は皆さんと議論しながら、子どもたちの最善の利益を第一に考えながらということになると思うのです。

今、いろいろヒントを頂きました。結論的には不登校というか、そのフリー

スクールにスポットを当てるという視点もあるし、その基になる大きな1つの要因としてのいじめ問題、過去にも取り組んだことのあるいじめ問題にスポットを当てて、当時の記録などを見ながら深める方向性をもう少し探ってみてもいいのかもしれませんが、あるいはネット依存というのもひとつ子どもたちの中で大きな問題になっていて、それがまたいろいろな方向に派生して、つながって、いじめとか不登校につながっていくこともあるので、そこにスポットを当ててもいいし、いろいろな視点を頂いたのかなと思います。どの辺りが皆さんのアンテナにひっかかりましたでしょうか。

委員：いいですか。すみません。今、一通り皆さんのお話を聞いて思ったのですが、サードプレイスという場所を知っている人とやはり知らない人はいるのです。もう一生懸命アンテナを張って、いろいろなところから引っ張り出してくる。子どもが問題を抱えている親の場合は、やはりいろいろなところに出向きますし、私も実際そうでした。一緒のところに出向いて、自分自身でもいろいろなところを調べて、いろいろなところから情報を引っ張ってきて、行政ではこれをやっている、行政以外ではこれをやっているということを一生懸命探す親もいれば、探さない親もやはりいると思うのです。子ども自身がすごく問題を抱えていて苦しんで、その状況に気づかない親もやはりいらっしゃると思います。そこは子どもとどれぐらい向き合うかは、親によって様々なので、実際、私自身は向き合ってもらわないと逆に、虐待を受けてきた側なのでこちら側の、子ども側の助けを求めたくてもどこに助けを求め、どこに逃げ込んだらいいのか分からない子ども側の気持ちも分かった上で発言させていただくのですけれども、親にも子どもにもサードプレイス、どういうところがあるのかというのを、情報を発信していくこともあってもいいのかなと。そういう形を作ることで、ことわざでもあるのですけれども、「馬を水辺に連れては行けても水を飲ませることはできない」ということわざがあるではないですか。その場所には連れていける。でも実際に水を飲むのは馬自身、判断をするのは子ども自身、判断をするのは大人自身、けれども情報がなければ何も判断はできない。

親と対峙するときに家庭裁判所にも行きました。警察にも行きました。いろいろな機関に助けを求めました。助けを求めするために法律もいろいろ調べました。必死でした。でも本当に当事者が必死にならなければ何にも情報が入ってこないのです。戦うにしてもその情報がなければ何もできないのです。外に行きたくても情報がなければ何もできない、ではその情報をどうつかんでいくか。本当に情報を得るためのものがなければ、やはり情報を発信してくれる場があると、ものすごくありがたいです。

なので、そういう情報を発信するという形だけでもいいのではないかなとちょっと思ったりはします。情報は本当に重要だと思うので、それは私の経験



上なのですけれども、そうでなければその子ども自身が自分の心を守れなかったり、逃げ場がなければ子ども自身が苦しみ続けたりしてしまいます。その親自身が苦しんでいる場合もある。子ども自身だけが苦しんでいる場合もある。双方共に苦しんでいる場合もある。いろいろなパターンがあるので、情報をこちら側から提供するというのもあっていいのではないかなとちょっと思いました。

会長：ありがとうございます。

委員：女性用のトイレにDV被害のパンフレット、よく見かけますよね。被害に遭われている方はどうぞここに電話してくださいとか。男性は入らない場所にその情報があるだけで、どれだけの人が救われたかと思うのですよね。それは信頼できるところだから、そういうものを発信できるのだなと思いますけれども、情報収集が難しい人にとってはすごくうれしいと思う。だからどのような形になるか、先ほどおっしゃったように、いろいろな宗教のいろいろな考え方で、フリースクール、サードプレイスを作られている方が多いので、それをどう皆さんに提供というか、情報提供するかというのはすごく難しいということも分かりますから、どうしたらいいかは私も全然分からないのですけれども、ただ情報をどこか手元に届けてあげたいなという気持ちはあります。

会長：ありがとうございます。

委員：皆さんの話を聞いておまして、やはり子どもの声を聞きたいというお話が最初に出まして、それで子どもの問題を聞くと。けれども、それを聞くというのは、やはりすごく取扱いがとても難しいことだ。子どもの声を聞きたいけれども、聞きっぱなしでいいのかというと、それでは何もならないので、やはりこの協議会の中では一応着地点を目指していかないといけないかなと思います。

サードプレイスとかそういう居場所とかフリースクールとかそういうところの情報を皆さんにお知らせしますよということだけでは、それぞれ、全て皆さん、性格がとても違いますから、どのようにそういう情報が欲しい人にきちんと届くことを考えて扱わなければいけないと思います。今までのテーマでもひきこもりや不登校の子どもたちに地域ができることとか、子どもの気持ちを受け止めていますかとかという、そういうテーマでこの協議会では扱ってきましたけれども、やはり今、だんだんに時代がこのコロナも超えて変わってきている中で、本当に生きにくい子どもたち、親たちの一助になるテーマが決まっていけたらいいなと思います。

私、実は国立のフリースクールで仕事をしています。そこには学校に行けなくなっている子どもたちとかいろいろ来ていますけれども、普通とはちょっと違い、やはりこだわりがある学校になっています。本当に性格が違うから、合う、合わないがあつて。私のところに来る子どもたちで、一番大変なのは親とも話し合つて、6年生まで学校に行けていないけれども、受けますとって通い始めて、駄目で去っていった子たちです。気になるのです。だからやはりフ

リースクール、ここにもありますからどうでしょうかという情報をお知らせするだけでいいかといったら、ちょっとと思いますので、なかなか難しい。けれども情報の欲しい人、それから国分寺の状況を知りたい人には、助けになることができると思います。すみません、まとまりないけれども。

会長：ありがとうございます。いかがでしょうか。なかなか難しいものですね。それぞれのフリースクールなどの運営母体とかいろいろな理念とかによって、性格も異なって、合う、合わないみたいなのところもあったりとか、いろいろと個性の強いものがあるわけですね。テーマ、例えばいじめとか不登校とか決めたとして、その言葉まで決めるのですかね、今日の時点で。前回ですと「地域で優しく育てよう子どもの心」という、そういうテーマ、文言まで決めて動き出していたと思うのですけれども、でもシンプルに「いじめと虐待」というテーマの期もありますし、そこは中身さえ決まってしまうと何でもなるのかなと思うのですが。ではどうしましょうかと言っても、お困りだと思いますので、私もちょっと悩んで。

事務局：方向性が、今の中ですと直接子どもたちの意見を聞くというお話と、それから情報発信をするというお話と、あとはアンケートみたいな形を取って、状況を把握して何かアプローチを考えるみたいな、いろいろな意見があったかと思うのです。それはやり方だと思うので、例えば今、会長がおっしゃられたようにいじめにするのか、不登校にするのか、ほかの場所について何かをすることか、方向性を一旦決めていただいて、そこに向かってどういう手法で進めていくかというご議論でもよろしいのかなと思います。

会長：ありがとうございます。そうですね。

委員：1個質問していいですか。テーマを決めたら、テーマはこれで決まりましたというのは何か市報などに載るのですか。

会長：今回そこまでは載らないと思います。

委員：終わるまで何も出ないのでしょうか。そこも実はひとつ。こういうことをやっていますというのをちょっと途中で発信したいと思うのです。P連で言ってしまうでもいいですかというのを1つ最後に聞こうと思ったのです。それもブラックボックスだと私は思っていて、P連に入るまで、私はこの協議会を知らなかったのです。正直、P連も知らなかったです。PTAというのは単体の存在だと思っていて、都P連だけだと思っていたら、国分寺市のPTA連合会があるというのは初めて知りまして、そこの委員になって、青少年問題協議会のことを知りました。ですので、こういう大事なことをやっているというのもしらないです。多分、結果はその最後の最終年度に市報に載るのでしょうかけれども、見逃してしまうと、もう2年間見ることがない市民がたくさんいるというのはもったいないと非常に思いました。2年間、小中学生、中学生で2年過ぎてしまうと高校に行ってしまうから。もったいないです。知る機会が少な

過ぎると思ったので、途中でこれも課題がたくさん出てしまいますけれども、中間答申にしてしまうと手間が増えるので大変なのですが、何かしらこういうことをやっていますよ、ご意見くださいというのがあると、もっと市民の声が集まってきたらといいなという感じです。実際は来ないかもしれませんが、やっている活動が見えないのはもったいないなと思いました。多分宝がいっぱいあるのだらうと思います。

事務局：皆様の確定を頂いた後に議事録等は公開しておりますので、その内容であればまだ途中途中であっても情報を発信していただいて問題ないかなとは思いますが。

委員：少なくとも発信で、やはりテーマしか見ないので、多分議事録全部は読まないと思います。

会長：そうですね。

委員：でもテーマはそのフリースクールとか出ると、興味ある人はそれで食いついてくると思うのですよね。それをぜひ途中で。少なくとも1年後には何とかしたいなと。2年間やっているという、こういうことをやっていますよ、最終的にここを目標にやっていますというのを、中間答申にしたいというのは私の希望です。少なくともP連では話したいと思っていて、仮ですけど、それが可能であればです。

会長：ホームページに出ている限りで、要旨というか要点をさらに取り出すのは全然問題ないですし、いいことだと思います。

委員：そういう理由であれば、結構テーマとか大事かなと思いました。よりシンプルなほうが。それも自分の居場所だというのだと、ちょっとピンと来ないかもしれないです。それであればゲーム依存とかのほうが入ってきやすいというか、また興味ある方は、不登校も興味ある方は、いじめもすごく分かりやすいです。テーマをできるだけシンプルなほうがいいかなと思いました、分かりやすい。

会長：皆さんのお話、今までいろいろお聞きしたのを総合すると、やはり1つ大きなテーマとしては不登校問題というのが共通項としてあるのかなと。先ほどご経験もお話しいただいたのですけれども、不登校だったお子さんが定時制高校に通って皆勤賞で卒業していくなどという、そういう道筋もあれば、隙間に落ち込んだままなかなか声が出せないまま引きこもっているというお子さんもいるでしょうし、そういったいろいろな道筋がある中で、それについて地域の皆様として何ができるのか。基本的にはやはり情報発信だと思うのですよね。それが形として子どもたちから声を聞くという活動で集約するのか、何かシンポジウムのようなものを開いて発信をするのか、子どもたちとの何か交流の場という形をして、それを市民の皆様に発信していくとかいろいろ。また場合によってはいろいろ難しく、やはり広報物を作るという形に収れんしていくのか、そういったところになってくるのかなと思うのですが。

この会として、まず我々が問題意識を持って学ぶ、それを地域の皆様に還元

をしていくという形で、その中には当然いじめで不登校になってしまうお子さんもいるかもしれませんが、校長先生がいる場であれですけれども、先生との関係が悪くて不登校になってしまう子もいますし、あとは家庭の問題もあるでしょうし、いろいろな問題を抱えながらというところだとは思いますが。切り口をどうやっていくのかというのは、また皆様のご意見を聞いてからにしようと思うのですが、大きなテーマとして不登校を掲げるというのはいかがでしょうか。

委員：いいと思います。

会長：ご意見はいろいろ多分あると思うのですが、どうしても嫌ということではなければそのような形でさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、今期のテーマとして不登校にスポットを当てて、皆様と学んで研究していくという方向でいきたいと思えます。文言については平成 27 年度に、不登校、ひきこもりの子どもに地域ができることなどとうたってはいますが。

委員：いいですか。副題でしたら、さっき校長先生がおっしゃっていた、コロナ禍を過ぎた上での不登校へスポットを当てるという部分で、新しい切り口ができるのではないかなと。以前はそういう環境ではなく、今はコロナ禍の中で、では、今の不登校はどんな状況だろうかと、ちょっと新しい切り口、今の切り口を持っていた方がいいのかなと思えます。

会長：ありがとうございます。

委員：通いたくても通えなかったということもあります。

委員：本当は頑張って通っていたけれども、コロナ禍になって、もういいやと。

委員：なりますよね。

委員：もういいやと思ってしまった子もいるのですよね。うまくコミュニケーションが取れなかった子もいるかもしれないし、いろいろきつとあったのではないかな。

会長：ありがとうございます。1つは、コロナ禍を乗り越えたというか、経験した社会での不登校問題ということについてというテーマですかね、副題として。ほかにはありますか。そうしますと今のは、シンプルにというお話も先ほど頂きましたけれども。

委員：すみません、余計なこと言って申し訳ありません。不登校というテーマの中で、これから皆さん話合いをされる中でそこが浮き出てくるのならば、それでいいのかなという形で、一応不登校というテーマは賛成です。

会長：ありがとうございます。今おっしゃっていただいた視点はとても大事だなと思っていて、言葉にするとすごく限定的に感じてしまう表現になってしまうので、今ちょっとそう思ったのですが、今の子たちの不登校はどうなのだろうとか、何がしんどいのだろうとかその辺をちょっと掘り下げたいという、

そういう視点はとても大事だなと思っていて、その辺をうまく表現できたらいいなと思っているのですけれども。今を考える的な言葉は何か入らないかなと思っているのです。

委員：すみません。不登校が普通だと思える環境が大事ですね。だから特別なことではないというか。不登校だからひきこもりではなくて、不登校でもちゃんと頑張れるという、何かポジティブな不登校になればいいかなと思います。不登校とかいじめというとネガティブなイメージがあるのですけれども。コロナ禍でこうなりました、不登校になりましたとか、コロナ禍でこう感じましたという、何というのですか、そういうポジティブな橋がけでいいのかなと思うのです。

会長：確かにそうですね。逆に言うと、コロナ禍で学校に行けないという状況はむしろプラスに働いた子というの中にはいると聞いたことがありますし、実際そうなのだろうなという気もいたします。ネガティブばかりではなくて。

委員：コロナを通じて、やはり感じたこととかポジティブに考える、会社もそうですけども。コロナで会社に行けなくなりましたという人もいっぱいいますし。

会長：逆にその会社勤めの方でもリモートになって、むしろ充実したみたいの方もいるぐらいですものね。ありがとうございます。そろそろまとめをしないといけない時間になってまいりました。1つは今のコロナ禍を経た不登校について考えるみたいな、そういうテーマが皆様の今のお話の議論の中では大筋としては見えてくるのかなと思います。

コロナ禍を経た不登校、すごくでもあれかな、不登校に「問題」はつけたくはないのです。不登校問題と言いたくはないですね、気持ち的には。「不登校を知る」とか「不登校を考える」とかにしたいなと思いますよね。「不登校の今を考える」みたいな、ちょっと抽象的かもしれませんが、そのようなテーマでいかがでしょうか。今を考える。

委員：今を、コロナ後の。

会長：コロナに限らず前からあったものも当然あるでしょうし、コロナで浮き彫りになったものみたいなものもあるでしょうし。

委員：不登校の内容も変わってきているということもあるわけですね。

会長：現場でも増えている中で、ある程度当たり前のように受け止めている部分もきっとあるでしょうし、あと学校にはメリット、いいところもたくさんあって、学校に来てくれればいいよという先生方の考えがあって、それに乗れる子もいますし、乗れない子もいて。ただ、リモートで授業を受けられるなどというのがコロナによってすごく進んだりもしていますよね。学校にWi-Fi設備が整ったりとかというのもコロナのいい影響だったのかなという気がします。ちょっとすみません、私のまとめでよろしいのでしょうか。不登校の今を考えるというテーマで今期を進めていきたいと思います。

委員：素晴らしい。ぴったりじゃないですか。

会長：ありがとうございます。では残りの時間、ちょっともう限られてはいるのですが、皆様のお疲れのところですけど、一応勉強会を、講師をお呼びしてやるというのが通例になっておまして、不登校問題、「不登校について」を考えるとというテーマになりました。方向性としてはその方向だとは思いますが、どういった方をお呼びしてこんな話を聞きたいというのが、もし皆様からご意見を言っていただけたら、特定の方であれば、その方について事務局でアプローチを次回までしていただくことになると思います。次回でいいのですよね、勉強会は。

事務局：はい。

会長：10月。

事務局：11月10日金曜日の予定です。

委員：11月10日ですね。

委員：第4回の会議ですよ。

事務局：はい。第4回に勉強会をさせていただく予定にしております。講師の方の日程を押さえさせていただき、今回、委員の皆さんから意見を頂けたらと思っております。

会長：分かりました。次回第3会の会議は10月の。

事務局：次回は10月12日木曜日になります。

会長：12日木曜日。

事務局：ちょっとお持ちでございましたら、第1回の資料4のところスケジュールを載せさせていただいております、第3回が10月12日木曜日、今日と同じ時間からでございます。場所はこちらです。予定としては11月10日の金曜日2時から4時でc o c o b u n j i プラザを今、会場を押さえてございますので、そちらでの勉強会を今のところを予定してございます。

会長：ありがとうございます。そうしますと次回、予算編成の都合上と確か何かお聞きしたと思うのですが、国分寺市で予算を組む上で、次回の10月12日にある程度成果物について方向性を定めて、予算検討をいただく方向ですね。

事務局：大きなものはここで確約ができないのですが、例えば印刷物の印刷製本費とか、逆に先ほどシンポジウムというお話が出ましたが、講師を呼ぶ予算とかそういった予算について大まかなものが決まっていれば、予算編成に出したいというところでございます。

会長：ありがとうございます。そうしますと次回はそういった、何を成果として、なかなか掘り下げ足りない部分なので、イメージがつきにくいことがあるかもしれませんが、ある程度成果物、行政の都合上、もうぎりぎりになって予算をお願いしてもつかないということで、予算編成のタイミングで成果物についても押さえなければいけないとなっておりますので、予定通りお願いいたし

ます。ということ踏まえつつ、今日の時点である程度講師の方向性の、こんな人呼びたいというイメージだけでもいいと思うのですよね。例えば先ほどのカタリバさんのように、民間で積極的に学校現場に入って、学校と連携しながら取り組まれている団体さんのお話を聞きたいとかでもいいですし、学者の先生を呼びたいでもいいですし、こんな人がいいのだけれどもというのがもしあれば、ご意見いただければありがたいなと思います。

委員：いいですか。先ほどもお話をしたカタリバの代表の方とか、やはり積極的に取り組んでいらっしゃる方々がどのようなことをやっているか、どのようなアプローチをしているかというのを勉強できたらいいなと思うので、できればカタリバの関係者の方が来ていただけたら、うれしいなと思います。

会長：ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。皆様、大学の先生とか研究職の方というよりは実際に何か取り組まれている方が良いというイメージでしょうか。

委員：そのほうがいいかもしれません。

会長：そのほうがいいですかね。

委員：活動されている方のほうがいいですよ。講師として招くならそうですよね、身近な方がいいですよ、親しみがあって。学校の先生はどうですか。学識経験者よりはそちらのほうがよろしいですか。

委員：はい。分かりました。

会長：ではそうしましたら、カタリバさんですか。国分寺市でちょっと関わられているかどうか分からないのですよね。

事務局：今ちょっと思い浮かばないので直接交渉してみたいと思います。もし駄目だった場合も想定して、第2とか第3とかそういったところもご議論いただいた上で、ご意見を頂いていたほうがスムーズかなとは思っています。

会長：分かりました。

委員：カタリバの方に前に座って話してもらおうというのはいかがかなと思います。カタリバという場の性格からして、彼らはその個と向かい合おうとしている。みんなに向かってしゃべろうという方たちではないはず。ですから、カタリバの人たちに来てもらおうと、学校では幾つも小さなグループになって個の話に入っていつてくれる、そういうものだと思っています。代表の方と話をしましたが、昔のことですが、今どうなのか知りませんが。だから前に立って話をするようなものではありませんよとは聞いていましたし、その中身は全くそのとおりだと思います。何人もの学生たちが、学生たちですよ、基本的に。その生徒たち数人ずつを集めて、個の話、目的、心を勇気づけてくれる、そういう場になっていく、そういう経験は何度かしている。だからちょっと性格は違うかなとは思っています。今変わっていればごめんなさい。

会長：なかなか面白いなと聞いて思ったのですけれども、もしかしたら我々が、子ど

もたちがカタリバさんからアプローチをしてもらうようなのを、実体験をグループディスカッションみたいな形ですするという。

委員：それも失礼です。

会長：今のはそういう主旨ではないのですか、違うのですか。そういう主旨ではなく、我々が一緒に対話形式での何かお話をします。

委員：カタリバの方たちと、その数人ずつでもって話をします、そういうのは失礼です、僕の知っているところでは。

会長：先ほど話されていた主旨としては、子どもたちにカタリバさんがやっている活動を知りたいという、代表の方からどのような活動をされているのですかと教えていただくという機会にしたいということなのですが、それもちょっといまいち違うのでしょうか。

委員：直接会って調べてみればいいと思います。

会長：主旨が分からなかったのです。

委員：こういう立場で、こういう協議会で私たちは不登校について考えようと思っていますけれども、カタリバさんではそういうことについてお詳しいと思いますのでお話を伺いたいのですがというアプローチでいって、それは私たちの主旨とは違いますというか、活動の中では違いますと言われたらもちろんペケけれども、先進的なことをされていますので、私たちは知りたいと思っているのですよということを素直にお話しすれば向こうでどういう風にとるか。

事務局：一旦、交渉してみたいと思います。こちらの主旨としては、不登校に関する支援者ではないですけれども、そういった講義的なお話をしていただける機会があるかどうかということをお話させていただければよろしいでしょうか。

会長：そうですね。

事務局：わかりました。駄目だった場合は第2、第3候補として、どういうところにアプローチをしたほうがいいのかを教えてくださいたいと思います。

会長：やはり子どもたちの居場所を作るですとか、居場所関連を実務的にやられている方、活動されている方からお話を聞きたいというのが、ニーズとしては強いのですかね。対象はどちらかという、小中学校あるいは高校生、そういった年齢にあるお子さんのサポートをしている、そういう活動の方ということですよ。

委員：前回不登校の27年度の時の講演を見ますと、小平児童相談所の方とNPO法人育て上げネットと書いてありますけれども、これはなぜこの方なのですか。結論としてこの方たちがいいだろうと選ばれた理由はどんなものだったのでしょうか。

会長：当時の議論はちょっと詳しくは分からないのですが、「育て上げネット」さんは、私も一時期お世話になったことがあります。立川にあるNPOなのですけれども、若者の自立支援、学校に行けなかったり、引きこもっている



お子さんに就労体験を提供したりとか、いろいろな生徒さんのサポートをしながら、寄り添いながら社会につなげていくという、そういう活動をされている方なので、多分出口を支える団体さんという捉え方でお話いただいたのかなと思います。

小平児相さんについては、いろいろな相談、虐待に限らず養育困難ですとか、非行傾向がある小学生とか、そういうお子さんの相談とか支援、通報が舞い込んでくるところなので、そういった観点でお話をされたのかなと、ちょっと想像なのですけれども感じました。

委員：あまりにも知識がなさすぎて、恥ずかしくて、誰とか、本当は適切な方がいらっしゃるのかもしれないのですが、今この場ではどうしても名前を挙げるのができないし、そのくらい何も知らないのですよね。何かそういうものないですかね。

会長：でも確かに前期もいついつまでであれば、こういう方がいいですというのは事務局に伝えていただければ参考にしますということで、たしか期限を設けて募集もしていたと思います。皆様、ちょっとネットとかいろいろな情報をまた追加でご興味のある部分で調べていただいて、こんな方がいいのではないかというのを事務局に寄せてもらっても大丈夫ですかね。

事務局：そうですね。1週間ぐらいの間でご意見を頂ければ、交渉していける時間があるかなと思います。勉強会を行う日にちが決まっているので、場所が例えば日にちが合わなかった場合に、次の場所ということでちょっと場所を確保できる保証が無いので、1週間ぐらいの間に、例えばネットとかで調べていただいて、こんな人とか、こんなグループとかいうのを教えていただければと思います。

事務局：会長がおっしゃっていただいたように、前期も皆様からの意見を事務局で取りまとめさせていただきました。こういう話を聞きたいというイメージだけは、今この場で皆さんに検討いただき、その後皆様からいただいた意見を会長、副会長と共有、調整させていただいて、講師の交渉をするというそんな流れでやらせていただきました。

会長：ありがとうございます。私ももっと考えて幾つかお伝えしていきたいと思います。皆様、よろしく申し上げます。

委員：すみません。P連でも同じような活動を実はしているみたいで、去年は立川のキラリっ子ファミリーカフェの代表の方に話を聞いたみたいです。おとしは大学の先生ですかね。その前は精神科医さんに聞いているみたいです。そういう視点で探すとか、立川とか国立とか三鷹とかにいっぱいいらっしゃるそうです、そういう活動をされている方。もしちょっと聞いてみて、P連経由で候補がいれば皆さんにお知らせします。

会長：ありがとうございます。よろしく申し上げます。ということで皆様、長時間にわたり、ご議論ありがとうございました。何とか今期の方向性も定まりまして、

次回以降、また皆様と議論を活発にできればと思っております。ありがとうございます。

では、次第の第3「その他」です。最後に事務局から何かありますでしょうか。

事務局：次回の会議日程のご連絡です。今回は10月12日午後2時から、場所は書庫等会議室を予定しております。開催日が近くなりましたら、開催通知と次回の資料を送付いたしますので、ご確認いただければと思います。また開催通知と併せて本日の議事録案を送付いたします。内容をご確認いただき、訂正箇所等ありましたら、期日まで事務局までご連絡をお願いいたします。事務局からは以上です。

事務局：すみません。今後の予定で確認させてください。皆様からの勉強会の意見とか講師案については、9月4日月曜日までに事務局にご連絡を頂ければと思います。その後、事務局でとりまとめた後、会長、副会長に事務局から共有をさせていただいて、調整をさせていただくという段取りで進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

会長：はい。

事務局：では、9月4日までにこういった話を聞きたいとか、こういう団体さんは面白そうだなというものがありましたら、ご連絡をお願いいたします。以上です。

会長：ありがとうございます。では皆様、9月4日までということで、気になる方がいらっしゃいましたら、事務局にお知らせください。

それでは、本日は以上をもちまして閉会とさせていただきます。皆様、お疲れさまでした。

— 了 —